



自分は存在しない世界の彼等。



ガバナー通信

NO
11

国際ロータリー第2620地区
2021-2022年度ガバナー

小林 聡一郎



ガバナー挨拶

「何と酷なタイトルをつけるのだ」とお叱りを受けるかもしれませんが、自分がこの世からいなくなった後の世界について、立ち止まって少しお考えください、との思いからつけたタイトルです。日常でこのようなことを考えることもないでしょうし、そんな後のことなど考えられないという方もいらっしゃるでしょうが、でも想像してみてください。

次の世代が生きていく世界とはどのようなものでしょうか。そしてその次の世代は？ 想像もできないような環境で生きていくのだと思いますが、AIを駆使して、人々の暮らしを支えるあらゆるモノやサービスがつながる「コネクテッド・シティ」の建設が裾野市で始まっていて、移動も心配なく、冷蔵庫に何の食品を補充すべきかも分かたて配送してくれる、そんな実証実験の町が作られています。それらを使いこなしながら暮らす、次の、その次の世代のことを想像すると、私たちが築き上げてきたこれまでの延長線上ではない、言葉通りの新時代・新生活が普通のことになっていくでしょう。当然人々の思考回路も変わってきますし、学びや仕事の仕方も変わってくるでしょう。生きる意味も変わってくるかもしれませんね。

ロータリーが取り組んできた活動を振り返れば、まさに未来への希望作りだったことに気付くはず。幼児も含めた青少年に関心をもち続けて、ボリオ根絶もその柱となる取り組みで、小児麻痺の危険にさらされている子どもたちと、これから生まれてくる子どもたちへの贈り物として、「根絶まであと少し」ところまでやってきました。そして母子の健康にも力を注ぎました。

今年度はコロナ禍によるR1方針で実施できませんでしたが、青少年交換もそうです。異文化を体験し、言葉を得られ、多様な考え方や解釈方法を学び、両国の親善を図りながら相互理解に役立つてくれました。インターアクトはどうでしょうか。中・高校生がロータリアンと交流し、ロータリーの考え方を学びながら自発的な奉仕活動に結びつけていくという道筋も見えてきます。識字率向上の取り組みもそうです。主には途上国の子ども達の学習環境の改善、校舎の新築やトイレの設置、井戸を掘ったり雨水を活用した水環境の改善など、子ども達の労働時間を減らして学習時間を増やすことなどに注力しています。

少し範囲を広ぐみれば米山奨学生もこの中に入ります。アジアの学生への援助で、バイトなどをしなくても勉強研究に専念できる環境を整え、卒業後はスキルを生かした職業を通して、また報恩の気持ちで両国の懸け橋として国発展の力になると同時に、自分達が奉仕の主体として活躍する、そんな米山山学友も増えてきています。ロータリアンもクラブが支援してきましたが、今後は自律的に活動していくでしょう。

つまり私たちロータリアンは、次の時代の礎を今築いているのです。自分はいなくなるかもしれませんが、そうではあってもよりよくなるだろう世界を夢見て、今を懸命に築き上げているのがロータリアンです。手を緩めることなく、次世代の育成に取り組み、彼等がよりよい社会で幸せに暮らせるよう取り組んでいきましょう。次の世界は彼等のものです。

奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

[国際ロータリー第2620地区 ガバナー月信 2022.5 / 青少年奉仕月間号]

地区運営ビジョン

ロータリーの中核的価値観をロータリアンの行動に変換する。



地区戦略ビジョン

元気で魅力があり地域で存在感のあるクラブを目指してロータリーの価値を高めよう。

米山記念奨学生 謝辞

写真左から
王鷲さん、ファム・ゴック・アンさん、
レー・チュオン・ロクさん



3月19日にグランディエールブケトーカイで開催させていただいた「米山記念奨学生期間終了式」での米山記念奨学生3名の謝辞をご紹介します。奨学生の皆様には、日本と母国との懸け橋として、さらに大きく羽ばたいてほしいと思います。ぜひご一読ください。(米山記念奨学委員会委員長 柳場文彦／山梨RC)

沼津北RC 米山記念奨学生 王鷲

皆様、こんにちは。奨学生として沼津北ロータリークラブに所属しており、日本大学大学院国際関係研究科の王鷲です。オミクロン株の席卷により、ロータリークラブの例会、学校行事、学友会の交流会などほぼすべての活動が中止となってしまい、辛い思いをする日々ですが、こうして我々奨学生の終了式を迎えることができました。悲しい気持ちではなく、米山奨学生になって良かったという嬉しい気持ちでお話させていただきます。

過去の二年間に感染拡大の原因による水際対策の強化で帰国できないという今まで経験したことのない心理的困難に直面する私はロータリーからたくさんの応援と励ましを得ています。毎月の奨学金の受給によって私たちの留学生活が支えられることはもちろん、ロータリアンと学友会の皆様が誰よりも文化の違う留学生の私たちに文化の理解と応援を与えてくださっています。このように応援してくださるロータリーのおかげで、私は来日留学して本当に良かったと非常に強く思うようになり、自分の学業目標も達成でき、大学院進学を成し遂げました。

成長した私を見守ってくださった大塩さんに特別に感謝したいと思います。過去の二年間に私のカウンセラーである大塩さんはまるで父親のように私のことを世話してくださいました。クラブ支援制度の利用による奨学生期間の延長、プロレス試合観戦のお誘いや人生相談など数え切れないほど大塩さんに世話していただきました。つい最近、就職活動に参加する私は大塩さんに綺麗に証明写真を撮れる写真館をご紹介いただきました。そこで凛々しくて立派な証明写真を手に入れた私は写真のスタッフさんに「お会計お願いします」と声を掛けると、「もう大塩さんが払ったよ、息子さんだからって」と返事をされました。

このような恩恵を受ける私はどうすれば恩返しできるのかと常に考えております。私が思い出すのは「恩返しは今じゃなくてこれからです」という学友会の篠原さんのお言葉です。未来がどうなるのか誰にも不安です。私は就職活動の最中で、内定をもらえるかどうか非常に心配していますが心の中でずっと信じていることがあります。それは努力する自分がいつか未来に社会に貢献できる人として援助が必要な人に手を貸すことができるようになることです。これは私がロータリー米山奨学生になってから培った新たな価値観であり、人生の大きな収穫の一つとしてこれからも大切にしていきたいと思っております。

複雑な世界情勢の中ですが、平和を信じる私たち米山奨学生はこれからも母国と日本との友好関係の促進に努力しましょう。そして私たちの人生が順調に進むよう、お祈りいたします。ありがとうございました。

20220416COL報告書

パストガバナー

規定審議会代表委員 志田洪顯(静岡RC)

4月11日(月)AM3:30から15日(金)AM2:00まで規定審議会(COL)は開催されました。私はオンライン参加を選択したので、自宅の仕事部屋にPC3台、30インチモニター3台、カメラ2台、音声装置(マイク・スピーカーセット)1セットを準備しました。ある男曰く「まるでデイトレーダーだね、大いに稼いでください」。

1台目はMS TeamsをセットしてCOL情報をウオッチ。2月から4月まで各種資料と修正案等が、開催中は即日議決結果が掲載されました。公式各国語で分類されているので、英語音痴でも安心でした。

2台目はLUMIというアプリを表示するためのもので、まだ日本ではなじみがないですが、欧米の大会社の株主総会の株主投票に採用されている実績のあるものらしく、即時に否可決を集計表示する優れたもの。シカゴのリアル会場での投票機器と連動して、ハイブリッド投票を即時集計する能力に驚きました。会議において最も重要なアプリであり、30インチモニターとマウスのおかげで、国際会議での投票が全く躊躇なく快適に投票できました。80件ほどの制定案を一括でなく個別投票を繰り返し4日間で採決。カウントの疑義は一件も出ない。驚きでした。

3台目にはご存知Zoomを表示しました。Zoom画面は双方向ではなく一方通行でした。COLのドレスコードはフォーマルなので、開会式の日、私はネクタイ上着を着用し椅子に構えました。しかし、開会式の画面はRI会長や議長のあいさつの姿、並んだ役員とデジタル技術職員の顔ばかりで、会場の参加者でさえチラッと映るばかり。オンライン参加の地区代表の映る画面は無く、総勢600人を超える参加者の会議ではやむを得ないことと理解できました。私のジャケットとネクタイは無用の長物。パジャマ姿でもOKとわかるとがっかりしました。

しかし、最終日の閉会行事でRI会長挨拶、長々と続く主催者講評、特にハイブリッド開催という歴史的偉業の達成に酔ったスピーチが終わった後に突然「オンライン参加の皆様、歴史的偉業は皆様によってなされました。さあZoomのカメラをオンにしてください。Zoom画面の左下にカメラのマークが出ます。オンにしてください」との案内がありました。幸い私は意地でパジャマ姿ではなくフォーマルの装いで座っていましたから、喜んでカメラをオンにしました。私の万歳が写っている! インパーソン参加の同期の本田氏、田中氏の姿もある! 手を振っている! Vサイン、たくさんの笑顔、やっぱりロータリアンは素晴らしい、世界の一体感を感じて私のシカゴの1週間は完了しました。

COL制定案審議の内容を詳述したいのですが、時代はデジタル、大変なスピードアップ、もうMy RotaryでCOL詳細を見ることができるので省きます。私の受け取った結論は一言で言うと「国際ロータリーの潮流の上にある」ということ。2016年、2019年のCOLでの採決合意、これが潮流であるから当面はその流れで行動を進めよう、振り返りは必ずなされなければならないがまずは流れに乗ろう、でなければ何も為すことはできない、と感じました。したがって、クラブの柔軟化の流れの中で、出席率、例会開催日数、メイクアップ規定、綱領・目的、職業奉仕論、これらの昔に戻るべき制定案はすべて承認されませんでした。これは、「6年後くらいのいつかに必ず振り返る必要がある。今は前に進もう」との意見表明に象徴されていました。「その間に会員は激減するかもしれない。しかし、合意した流れだ。恐れずに進んでみよう」。これが国際ロータリーの総意と感じました。「多様性とリーダーシップ」が合言葉であり、「高潔性を失ってはならない」、加えて「DEIを視点に置き行動しなければならない」というのが潮流のようです。

会員負担金の値上げは可決されました。SRFはRI理事会の大幅譲歩案で可決されました。RI事務総長の報酬総額と任期の制限は、厳しい議論の末に否決されました。日本の社会状況に比べ、欧米の「WITHコロナ急成長の現況」と「ウクライナからのNATO危機」が、国際機関に対する考え方の日本と世界の極端な相違になっていると感じました。発言はRI理事会を筆頭に、日本、インド、ブラジル、台湾が盛んでした。

4月16日(土)AM1:50、規定審議会は完結しました。そして私は「14時間」の時差ぼけ状態です。画期的な国際会議は大成功に終了しました。しかし、素晴らしいデジタル技術も時差だけは解決できませんでした。これが今回の結論。4月17日(日)AM0:30、眠れないのでガバナー事務所からの無理難題、4月19日期限の報告書原稿にとりかかりました。これで紙数が尽きたのでCOL報告にさせていただきます。参加できたことに感謝申し上げます。

第34回全国ローターアクト研修会



3月26、27日にRI第2680地区（兵庫）のホストの下、全国ローターアクト研修会・全国ローターアクト代表者会議が開催されました。コロナ禍のためハイブリッド形式で開催され、代表者会議の義務出席者・関係者のみ現地出席、それ以外の方はZoom出席で、当地区からは16名出席しました。研修会では貧困国での医療支援を行うNPO団体代表者と、古民家再生や集落再生を手がける国土計画家の2名による「リーダーシップについて」という基調講演がありました。「気づいた人がやる」という第一歩が大切だという事を改めて感じました。懇親プログラムでは各地区のPR動画が流れ、コロナ禍で集まれなくても工夫を凝らした作品ばかりで楽しく拝見しました。2日目は代表者会議と国際シンポジウムが同時開催され、国際シンポジウムでは国際協議会に出席した事がある当地区アクターもパネリストとして登壇していました。ハイブリッド形式ではありますが、現地開催の全国ローターアクト研修会は3年ぶりという事もあり、友好地区の皆様と意見交換をしたり親睦を深めたりする事ができ、とても有意義な2日間でした。（ローターアクト地区代表 山本有輝／静岡北RAC）

2022学年度 米山記念奨学生・世話クラブカウンセラーオリエンテーション



静岡中部・東部会場＝米山梅吉記念館



浜松会場＝グランドホテル浜松

前日の夜から降り続く雨で花冷えとなった4月3日、2022学年度の新米山記念奨学生世話クラブカウンセラーオリエンテーションを米山梅吉記念館、グランドホテル浜松、やまなし地域づくり交流センターの3会場に分けて開催いたしました。世話クラブカウンセラーのオリエンテーションでは、3会場合計28名の会長、会長代理、カウンセラーにご出席いただき、本事業の歴史から世話クラブ、カウンセラーにそれぞれ求められる取り組みを研修していただきました。また、奨学生オリエンテーションでは、多くの応募者の中から選ばれた17名の新奨学生が米山記念奨学生としての心構えや奨学会のルールを学び、積極的にロータリアンと交流して世話クラブに早く馴染むことが大切だと認識していただきました。その後に行われた世話クラブと奨学生の対面式においては、小林聡一郎ガバナーから各世話クラブへ受け入れへのお礼と奨学生に対して歓迎の言葉を頂戴すると共に、公益財団法人ロータリー米山記念奨学会の井上雅雄理事から奨学会についてのお話を頂戴しました。また、海外出張中の青山チャリット学友会長からも学友会を代表して祝辞をいただきました。対面式では、多くのロータリアンに囲まれて緊張した奨学生たちが、米山奨学生の証であるバッジやタスキを各会場の役員から受け取り、笑顔で記念撮影をして対面式を終了いたしました。こうして、全てのセレモニーを終え、晴れて米山記念奨学生になった学生は、今後各世話クラブでの例会に出席します。日本語があまり得意でない奨学生や内気で自分自身を表現できない奨学生もいます。世話クラブ、カウンセラーの皆様方におかれましては、どうか温かい心で奨学生に寄り添っていただきたいと思います。



山梨会場＝やまなし地域づくり交流センター

今回世話クラブとして奨学生を受入れいただきました会長はじめとする各クラブの皆様と奨学生の親代わりとしてカウンセラーを務めていただけるロータリアンに感謝の意を表し、開催報告とさせていただきます。誠にありがとうございました。米山奨学生の皆さんを何卒よろしくお願ひ致します。（米山記念奨学委員会委員長 柳場文彦／山梨RC）

浜松南RC 米山記念奨学生 ファム ゴック アン

こんにちは。浜松南ロータリークラブに所属する米山記念奨学生ファム ゴック アンです。

静岡では本日から桜が咲きはじめ、温かな心地良い風を感じる時節となりました。本日は、コロナ感染症の厳しい中、様々なご準備・ご配慮をいただき、私たちのためにこのように温かな終了式を開いていただきありがとうございます。

私は今でも2年前米山奨学金に合格した日を昨日のようにはっきり覚えています。通知があったときは、授業の開始時間の少し前でした。合格したと知ったときには、教室中で高くジャンプするほどうれしかったです。それから私のロータリーと思い出の溢れる2年間が始まりました。2年前は、ちょうどコロナ感染症が広がっていく頃でした。新奨学生のオリエンテーションが個別で行われて、私の初例会の参加も奨学生になってから2ヶ月後でした。コロナ感染症の影響を受けてロータリアンと顔合わせすることも難しい奨学生も少なくはなかったと思います。幸い私は世話クラブのお気遣いをいただき、例会以外に緑の防波堤など地方の活動や三味線や落語など日本の文化に接する機会を作っていただきました。普段私たちが普通の留学生として生活し、大学で勉強しているだけでは体験できない貴重な体験でした。また、カウンセラーをはじめ、ロータリアンの皆様にお世話していただき、多くの時間を過ごすことができたのも、私にとってとてもよい経験となりました。皆様からいただいたアドバイスや、共に過ごす時間の中で学んだことが多くあります。私はここで学んだことを生かして、様々なことに挑戦し、自分自身で成長を続けていきたいと思います。そして、出身、専門、言葉など、共通点がない私たち奨学生を繋げてくれたのもロータリー米山記念奨学金でした。私たちは、これから、それぞれの夢に向かって挑戦をしていきます。そのなかで、辛いことがあったり、困難が待ち受けていたりするかもしれません。しかし、私たち奨学生はお互いに励ましあい、どんな困難でも乗り越えることができると信じています。この繋がりも、私にとってはロータリー米山記念奨学金からいただいた大切なものです。この2年間で、私はとても貴重な文化交流の機会をいただき、日々、日本のことを好きになっています。そしてロータリアンと奨学生の皆様の交流を通して、私たちは大きく成長できました。将来どんな困難であっても乗り越えるための自信がついたと思います。どんなことがあっても、私たちのそばには、ロータリーの家族がいます。最後になりましたが、私たちの生活を支えてくださったすべての方に、改めて感謝申し上げます。そして卒業の奨学生の皆様に、益々のご活躍を祈っております。ありがとうございました。

甲府南RC 米山記念奨学生 レー チュオン ロク

本日は私たち(奨学期間修了生)のためにこのように盛大な修了式を開いていただきましてありがとうございます。また、先ほどは第2620地区の小林聡一郎ガバナーをはじめ来賓の皆さん、現役の奨学生の皆さんからあたたかいお言葉をいただき、胸が熱くなる思いがしております。本当にありがとうございました。

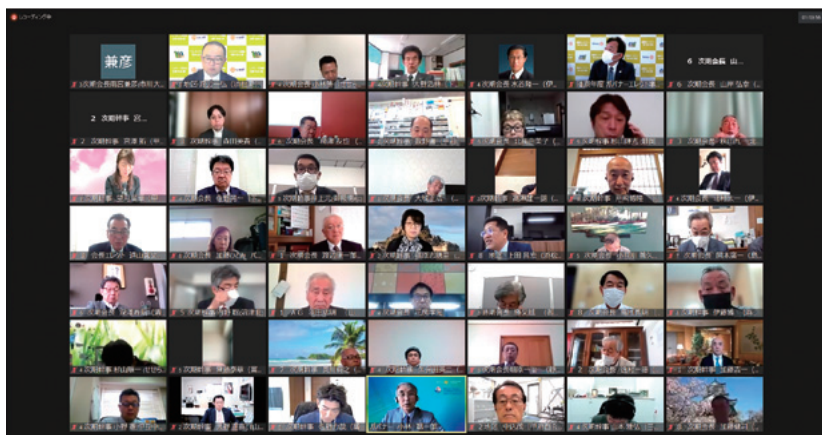
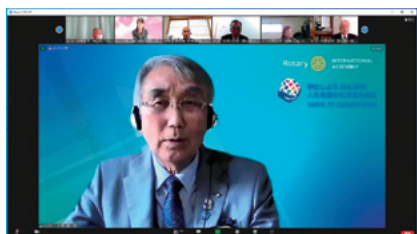
私はロータリー米山記念奨学生として採用され、すでに2年が過ぎようとしております。自分の夢をかなえるために希望を持ち日本へ留学に来ました。しかし、現実には親からの仕送りがなく、日本での生活と学業を両立するのが非常に大変で厳しいものでした。そんな日々が続く中、私は幸いなことにロータリー米山記念奨学会に出会いました。奨学金を受け取ることで経済的な不安が減り、自分の研究に専念することができるようになりました。それに、学内イベントにも参加する時間が増え、充実した大学生活を送ることができました。また経済的な支援以上に嬉しかったのは、コロナ蔓延の大変な時期の中、定期的な交流会や海岸清掃などのイベントを設けていただき、留学生同士との交流や経験交換により、新たな友達を作ることができました。また、カウンセラー制度と配属先クラブの例会参加を通して、社会で成功されている人生の先輩方と触れ合うおかげで、自分の視野が広がり、日本文化への理解と関心を高めることもでき、忘れることのできない思い出になっております。

今日、私たちはロータリー米山記念奨学期間を終了致します。本音を明かしますと、この先、私たちの前に広がっている世界を見て、不安に身がすくみ、震えるような思いがする一方で、期待に胸が膨らみ、わくわくするような思いも致します。一人一人の不安は、友と手を取り合うことで勇気と力に変えて、胸を張って世界平和維持に貢献することこそが、私たちロータリー米山奨学生の使命だと思えるようになりました。困難にも勇気をもって立ち向かうための剣と楯をロータリーで得たような気がします。

最後になりますが、小林ガバナーをはじめ、諸会員、カウンセラーの皆さん、本当にお世話になりました。私たちは必ず皆さんから受け取った「心」を忘れずに、それぞれの進路へと旅立っていきます。どうか暖かく見守ってください。そして、時には変わらぬご指導をお願いいたします。奨学生を代表する一人として、ここでもう一度心から感謝の言葉を申し上げ、謝辞とさせていただきます。本当にありがとうございました。

DO MORE ☆ RID2620 TOPICS

会長エレクト研修セミナー (PETS)



2022年3月21日(月・祝)、Zoomを使ったオンライン会議室に次年度関係者が一堂に集り「会長エレクト研修セミナー(PETS)」が開催されました。午前10時半、浅原諒蔵ガバナーエレクトの「開会の言葉」から研修が始まり、最初に小林聰一郎ガバナーより激励の挨拶を賜り、続いて「ロータリーの多様性・公平さ・インクルージョンの取り組み」と題してロータリーに対する考え方の講話を高野孫左エ門パストガバナーにいただきました。その後はPETSの意義を次期地区研修委員長の安間みち子パストガバナーより学び、浅原ガバナーエレクトが次期RI会長テーマの解説および次年度の方針を説明しました。休憩を挟み午後からは地区内8グループに分かれ、次期ガバナー補佐をファシリテーターとして意見交換をし、再び本会議に全員集合。ジェニファー E.ジョーンズ次期RI会長のビデオメッセージの視聴、各次期委員長からの抱負や事業計画の説明を聞き、最後は浅原ガバナーエレクトより総評をいただき無事終了となりました。(次期地区副幹事 渡辺一弘／浜松東RC)

地区補助金セミナー報告

地区財団委員会では、恒例の地区補助金セミナーを3月22日(火)～3月27日(日)の期間に開催しました。本年度も、コロナの影響がまだ続いていることもあり、Zoomで開催。それぞれのグループ別に8回行い、次年度ガバナー補佐にも出席いただき、グループ担当委員が中心に進行をしました。参加クラブは77クラブ中74クラブと最も多く、参加者も148名参加していただきました。セミナーはグループ別少人数にしたメリットを生かし、後半にはそれぞれのクラブが取り組んできた過去の地区補助金事業や、これから計画している奉仕事業の素案を紹介し合い、それをベースにさまざまなディスカッションを行い、アイデア交換もしていきました。非常に多彩な意見をいただき、多くの回が予定の1時間半では足りなくなりました。皆様の積極的な意見交換に改めて感謝いたします。

次年度地区補助金の予定額は125,000ドル程度、配分方法は昨年と同様総事業費の50%を上限、クラブの会員数により上限額を10万円～50万円に設定。締め切りは5月15日(日)になっております。みなさまからの素晴らしい奉仕事業の申請をお待ちしております。

(ロータリー財団委員会副委員長 望月啓行／静岡RC)

藤枝RC設立50周年記念例会報告



藤枝ロータリークラブは4月8日、設立50周年記念式典を藤枝市の小杉苑で行いました。小林聰一郎ガバナー、志田洪顯・松村友吉両バスターガバナー、小谷幸一ガバナー補佐、第4グループ会長・幹事をはじめ、藤枝市長ら100人が出席しました。

私から「今後も新しい時代にあわせ柔軟にロータリーのカタチを変化させながら、さらに地域社会に期待され、親しまれるクラブとして活動していきたい」と挨拶、さらなる発展に向け決意を新たにしました。

藤枝RCは焼津クラブをスポンサーに1972年に30人のメンバーで創立し、現在は42人の会員が在籍しています。当日は、シェカール・メータRI会長からの50年のお祝いメッセージが紹介されたほか、ロータリー米山記念奨学会と米山梅吉記念館への寄付贈呈が行われ、例会皆出席30年以上の会員3名が表彰されました。50周年記念事業は「女子のエンパワーメント支援」をテーマに展開しました。国際交流事業として、障害者ボランティアに取り組み日本・豪州・台湾3カ国の女子高生による会議を実施したほか、18歳以下の全国女子サッカー強化試合「ロータリー杯」を開催し、藤枝総合運動公園サッカー場に選手入場カーペットとボールスタンドを寄贈しました。

(藤枝RC 会長 江崎晴城)

パワー浜松ロータリークラブ創立20周年記念式典



4月16日(土)、創立20周年記念式典をオークラクトシティホテル浜松で開催いたしました。小林聰一郎ガバナー、石津匡美ガバナー補佐を始め、鈴木康友浜松市長、斉藤薫浜松商工会議所会頭、塚本こなみ浜松市花みどり振興財団理事長、静岡第5グループの会長幹事の皆様にご臨席賜りました。

記念式典に先立ち、アクトシティ浜松中ホールにおいて、若手音楽家米澤美玖さん、秋田慎治さん、瀬川千鶴さん、納浩一さん、川口千里さん、ゲストボーカルの森口博子さんの出演によるPOWER JAZZ CONCERTを開催し、多くの市民の皆様と共に音楽で20周年を祝いました。

記念式典では、ご来賓の皆様から祝辞をいただき、スポンサークラブの浜松中ロータリークラブに感謝状と記念品を贈呈し、ロータリー財団と米山記念奨学会に対する記念の寄付金の贈呈を行いました。また、3月6日(日)に浜松フラワーパークで行った桜(思川、白妙、御車返し)の記念植樹の様子を紹介いたしました。続いて行われた祝宴では、20年間の歩みを映像で振り返るとともに、当クラブを卒業された米山奨学生の皆さんからのビデオメッセージが披露され、地元の音楽家による演奏のアトラクションを楽しみました。

多くの皆様のご助力により心に残る20周年記念事業を執り行うことができましたことに心より感謝申し上げます。

(パワー浜松ロータリークラブ会長 高貝亮)

お知らせ

◆ いよいよ間近! 5月21日(土)、22日(日)に地区大会 ◆

地区大会を5月21日(土)に甲府記念日ホテルで、5月22日(日)にYCC県民文化ホールで開催いたします。今回の地区大会はコロナ禍の環境ですから、開催自体の是非から問われることとなりますが、ワクチン接種状況やコロナ感染者数の推移、また、経済活動とのバランスを勘案して、できる限りの予防措置を講じながら、緊急事態宣言やまんえん防止等重点措置の発令がない限り、開催させていただくことと決めました。なお、コロナ対策としてお持ち帰りのお弁当の配布を中止させていただきます。記念品とともに粗品をお渡しいたします。感染対策を万全にして皆様をお迎えするよう、地区大会実行委員会一丸となり、準備を進めさせていただいております。何卒よろしくお願いたします。

◆ 甲府中央ロータリークラブ認証状伝達式 ◆

2022年4月10日。初夏を思わせるような晴れやかな日曜日、甲府中央ロータリークラブ認証状伝達式を甲府市内のホテル談露館にて行いました。小林聰一郎ガバナー、高野孫左エ門新クラブアドバイザー、中村皇積ガバナーノミニを初めガバナー補佐の皆様、第2グループの会長様など多くのロータリアンの皆様にご出席いただき恙無く式典を終えましたことをご報告いたします。



2020年8月に甲府シティRCをスポンサークラブとして甲府シティ中央ロータリー衛星クラブを発足し、2022年2月末で会員数20名に達したため2022年3月RI国際ロータリーに甲府中央ロータリークラブとして加盟申請いたしました。

この間地区内の多くのロータリアンの方々にご指導いただきここまで来ることが出来ました。私自身は29年の在籍歴ですが、この2年間ほどロータリーについて真剣に学んだことはありませんでした。ロータリーを知らない人にロータリーの良さを伝える、とても難しいことでした。それが達成できたのはクラブの皆のお陰です。入会したばかりの新会員の笑顔のお陰です。決められた例会時間に集まり例会準備をし、決められたプログラムを肅々とこなす頼もしい仲間。そういう仲間をもっと増やそうと皆で努力しました。

私達の小さな一歩を記した記念誌を作りました。クラブのありのままを綴った宝物です。甲府中央RCの「ここから」をお見守り頂けましたら幸いです。(甲府中央RC初代会長 田村ひろ子)

